

「ドギーバッグ（持ち帰り容器）デザインコンテスト」の審査結果について

県民の皆様に食品ロス削減への関心を高めてもらうため実施した「ドギーバッグ（持ち帰り容器）デザインコンテスト」について、審査結果をお知らせします。

記

1 応募状況

(1) 応募期間

令和3年9月28日（火）から11月3日（水）

(2) 応募数 …… 551点

（内訳）一般 …… 56点

学生（中学生以上） …… 262点

キッズ（小学生以下） …… 233点

2 審査結果

(1) 入賞者

○最優秀賞

・上田 浩（福島市） 一般

○優秀賞

・大澤 風花（会津若松市） 会津学鳳高校3年

・安達 忍（会津美里町） 一般

○学生賞

・九軒 花香（神奈川県） 日本大学3年

○キッズ賞

・丹治 莉緒（福島市） 杉妻小学校5年

・服部 寿哉（ 〃 ） 〃

・奥藤 凜（いわき市） 小名浜第二小学校6年

(2) 入賞作品 別紙1のとおり

(3) 入賞者のコメント 別紙2のとおり

3 その他

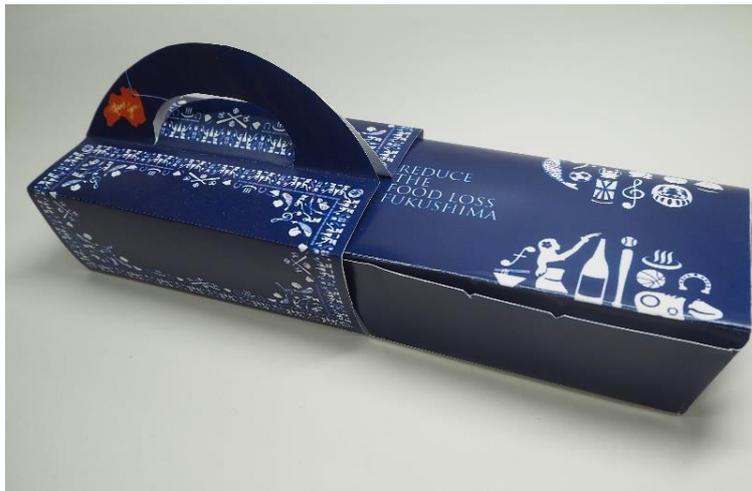
- 受賞者に対して、賞状及び副賞（県産品等）を贈呈します。
- 最優秀賞のデザインで、容器を作成し、県が認定している「食べ残しゼロ協力店」で、県民に利用していただきます。
- ※食べ残しゼロ協力店の一覧は、県のホームページに掲載しております。

URL : <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/16045a/foodloss-ninteiten.html>

検索ワード「福島県 食べ残しゼロ協力店」

h

最優秀賞作品 上田 浩さん



優秀賞作品 大澤 風花さん



優秀賞作品 安達 忍さん



学生賞 九軒 花香さん



キッズ賞 丹治 莉緒さん



キッズ賞 服部 寿哉さん



キッズ賞 奥藤 凜さん



○ 最優秀賞1点

^{うえだ ひろし}
上田 浩さん（福島市） 一般

「今回のデザインを通して食品ロスに少しでも貢献できることが一番ですが、併せて食品を作る方、持ち帰る方、食べる方、手にする方々にこのデザインを気に入っていただき、このデザインから楽しい会話や笑顔が生まれれば、大変うれしく思います。」

○ 優秀賞2点

^{おおさわ ふうか}
大澤 風花さん（会津若松市） 県立会津学鳳高校 3年生

「ドギーバッグをかわいいデザインにして、皆にもっと知ってもらいたい。（大人に対して）大量に作って捨てるだけなら、より安い値段で売り出したり、食料が十分でない地域に配給してほしい。」

^{あだち しのが}
安達 忍さん（会津美里町） 一般

「残りものを持ち帰ることが、『貧乏くさい』ことじゃない『当然』だと思ってもらえるような可愛いデザインにしたいなと考えました。料理を作ってくれた人をリスペクトして完食しましょう。」

○ 学生賞1点

^{くけん はなか}
九軒 花香さん（神奈川県） 日本大学 3年

「企業から出る一般廃棄物より家庭から出る一般廃棄物の方が多いいことにショックを受けました。食品ロス削減の取り組みとしては、食材を余すところなく極限まで料理に使っています。残った端材は家の庭の堆肥にしています。」

○ キッズ賞（小学生以下）3点

^{たんじ}丹治 ^{りお}莉緒さん（福島市） 福島市立杉妻小学校 5年生

「学校の授業で環境について勉強したので応募しました。食品ロス削減の取り組みとしては、苦手な食べ物でも食べるようにしています。絵を見た人が残さないようにしようと思ってくれるといいな。」

^{はっとり}服部 ^{としや}寿哉さん（福島市） 福島市立杉妻小学校 5年生

「農家の人たちなどが大切に育てた野菜などを育てたりしているのに、残すなんてひどいなと思いながら書きました。みんなで食品ロスを減らせば少なくなると思います。ゼロにすることは難しいと思うので、できるだけみんなで少なくしたいです。」

^{おくとう}奥藤 ^{りん}凜さん（いわき市） いわき市立小名浜第二小学校 6年生

「人が食べるものの命の重さを表現し、人も動物も命の重さが同じであるという思いでデザインしました。福島県にはたくさん美味しいものがあるけど、無駄にしちゃうことが多いから気を付けていきたい。」